

『矢作川研究』に投稿される方へのお願い

豊田市矢作川研究所の年報『矢作川研究』では、研究所の活動内容と成果をはじめ、矢作川流域の自然や社会に関するさまざまな報告を掲載しています。この『矢作川研究』に掲載する原稿を募集します。投稿規定並びに執筆要領を熟読の上ご投稿ください。なお、掲載時期については誌面の都合上、ご希望に添えない場合があります。

投稿規定

1. 投稿者

どなたでもできます。

2. 原稿の種類

矢作川流域の自然や社会に関連する論文、研究ノート、資料、活動報告等とします。ただし原稿は未発表のものに限ります。

3. 原稿の採否および校正

編集委員会が内容的にふさわしくないと判断したものは、掲載をお断りすることがあります。また、掲載が決まった原稿も、編集委員会から手直しをお願いすることがあります。

4. 制限ページおよび原稿の受付

原稿の長さは刷り上がり 20 ページ以内とします。このページ数を超える場合はご相談ください。原稿は執筆要領に従い作成し、以下の宛先に E メールで送信してください。

〒 471-0025

豊田市西町 2-19 豊田市職員会館 1 階

豊田市矢作川研究所『矢作川研究』編集委員会

Tel : 0565-34-6860

Fax : 0565-34-6028

E-mail : yahagi@yahagigawa.jp

5. 別刷

50 部までは無料となります。50 部を超えて印刷を必要とする場合は著者の負担となります。ご希望の部数を明記してください。

6. 付則

本誌に掲載されたすべての投稿の著作権は豊田市矢作川研究所に帰属しますが、本人による著作物転用の場合のみ申し出を必要としません。ただし当研究所の矢作川関連資料データベース登録のためご一報ください。

執筆要領

原稿は原則、以下に従って執筆してください。

1. 原稿

原稿は和文か英文で A 4 判の横書きに余白を 3 cm とし、デジタルデータで作成してください。

2. 記載形式

記載形式は原稿の種類、表題（和文・英文を併記）、著者名（和文・英文を併記）、要約、キーワード（5 個以内）、はじめに、調査地と方法、結果、考察、謝辞、要約（本文が和文なら英文、本文が英文なら和文）、引用文献、付表、著者住所などの順としてください。和文要約は必須としますが、英文要約は任意とします。

3. 活字指定

動植物種名は基本的にカタカナ表記とし、初出には学名（属名および種小名）をイタリックで付記してください。なお、句読点は（.）および（,）としてください。

4. 図・表・写真

図、表、写真は 1 つずつ別紙にしてそれぞれ通し番号（図 1、表 1 など）を付けてください。図、表、写真のタイトル、説明文は別紙にまとめて書き、添付してください。写真および一部の図のみカラーを指定できますが、都合によりできない場合もあります。また、図・表・写真を引用、転載する場合は、著者自身が事前に著作権者に許可を受けてください。

5. 文献

文献は文中に引用したものだけを引用文献とし、すべて記載してください。参考文献の記載を希望する場合は、引用文献の後に記載してください。いずれの場合も、第一著者の姓の ABC 順に表記してください。

文献の表記は以下のようにしてください。

a) 雑誌論文：著者名（年号）表題、掲載雑誌名、巻*：ページ。

中村太士（1995）河畔域における森林と河川の相互作用。日本生態学会誌，45：295-300。

田中 蕃・新見幾男（2006）矢作川の未来。矢作

川研究, 10 : 259-372.

Vannote, R. L., G. W. Minshall, K. W. Cummins, J. R. Sedell and C. E. Cushing (1980) The river continuum concept. *Can. J. Fish. Aquat. Sci.*, 37 : 130-137.

*号のみの雑誌は号数を入れて下さい。また、1巻の中が通しページではなく号によって異なる雑誌は、巻の後に丸括弧でくくった号数を入れてください。

b) 単行本の全部 : 著者名 (年号) 表題. 発行所, 発行地*.

Allan, J. D. (1995) *Stream ecology: Structure and Function of Running Waters*. Chapman & Hall, London.

大井次三郎・北川政夫 (1992) 新日本植物誌 顕花篇. 至文堂, 東京.

*よく知られている発行所の発行地は省いても構いません。

c) 単行本の章または分冊 : 著者名 (年号) 章題. 表題, 編者名 : ページ. 発行所, 発行地.

服部 保 (1988) 農耕文化と植物社会. 日本の植生侵略と攪乱の生態学, 矢野悟道 (編著) : 22-61. 東京大学出版会, 東京.

Lowe, R. L. and Y. Pan (1996) Benthic algal communities as biological monitoring. In

Algal Ecology: Freshwater Benthic Ecosystems, R. J. Stevenson, M. L. Bothwell and R. L. Lowe (eds.): 705-739. Academic Press, San Diego.

d) Web サイト : 発行者名 (年号) 資料・ページ表題. URL (閲覧日).

気象庁 (2020) 過去の気象データ検索. <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> (2020年1月1日閲覧).

e) 文中での文献の引用は以下の例に従ってください。

鈴木・津田 (1991) は__
__報じられている (高須, 1999 ; 辻本ほか, 1999).
__と考えられる (Biggs et al., 1992 ; 林, 1997a, 1997b, 2000).

6. 注

注をつける場合は、本文中該当箇所の右肩に通し番号^{1),2)}のように記し、本文の後にまとめて掲載してください。

(2000年7月 制定)

(2003年6月 改正)

(2004年3月 改正)

(2009年2月 改正)

(2017年2月 改正)

(2020年4月 改正)